



学校の近くを流れる秋川での清掃活動。メンバーの視線は世界に向けられている(4月27日、あきる野市で)

SDGs エスディージーズと読み、Sustainable Development Goalsという英語の頭文字からとった略称「持続可能な開発目標」と訳されている。2015年の国連総会で採択され、貧困や飢餓、教育、男女の平等、働きがい、生産消費、生態系の保全など17項目の目標を掲げている。目標の下には、具体策や数値目標などを示した計169のターゲットがある。

# SDGs @スクール

東京都西部のあきる野市。都心から離れた豊かな自然環境で学び、地域に根ざした活動をしながら、SDGsのメッセージを発信し続ける高校生たちがいる。  
(教育ネットワーク事務局 石橋大祐)

## 東京都立五日市高校ESS国際交流部

# 「もったいない」世界に発信

### 今回の主な目標



### ワード?ラボ

\*SDGs@スクールは毎月1回(第1水曜日)お届けします。

### もったいない (MOTTAINAI)

物を粗末に扱うことを惜しむ、日本文化を象徴する言葉。2004年にノーベル平和賞を受賞したケニアの環境副大臣ワンガリ・マタサイさんの運動で世界的に有名になった。



「MOTTAINAI」の動画はこちらのQRコードからご覧になれます。

高木さん(中)セザリくん(右)も発信した(6月19日)

### Mission

#### 近くの川を清掃

4月27日の放課後、ゴミ袋とトンクを手にした高校生たちが坂道を下っていく。「頑張ってるね」「頑張った自転車のお年寄りか、笑顔で声をかけた。東京都立五日市高校ESS国際交流部が、学校近くを流れる秋川で行っている清掃活動は地元でも評判だ。「自然豊かな環境だから、その外の世界」目を向け、どんな体験的に学んでほしい。2018年に同部を始めた狙いについて、顧問の中村俊佑主任教諭が語った。6年目の今年、部員は約10人。清掃のほか、英語や中国語、韓国語を使った国際交流、地域活性化などの活動に取り組んでいる。

コロナ禍の21年には、メンバーがオンラインで台湾の姉妹校の生徒たちと英語で交流し、地域の紹介やSDGsの取り組みなどについて、意見を交換した。今年3月まで部長として引っ張ってきた貫井麻妃さん(3年)は「海外との交流など、様々な活動を通じて視野が広がった。楽しんでやっていると、うちに成長できたと思う」と笑顔で話した。

### Action

#### 地域に支えられ

「日本にもSDGsの取り組みがあることを世界に知ってもらったために、歌を通じて日本のもったいない精神を発信しよう。21年には、ものを大事にする「もったいない」をコンセプトにした歌作りに乗り出した。大分県在住のシンガー・ソングライター山田証さんの指導を受けながら、歌詞を作り、約半年かけて、オリジナルソング「MOTTAINAI」を完成させた。何かもったいないか考えてみよう、自分自身に問いかけてみよう。」

曲は、音楽配信サイトで配信されたほか、メンバーたちが地域の森の間伐材を使った太鼓で演奏し、その動画をYouTubeで公開。世界に発信した。メンバーで意見を出し合っ、MOTTAINAIダンスも考案した。この取り組みは、麗沢大学などが主催する「高校生プレゼンテーションコンテスト」で最優秀賞に輝いた。活動は、多くの地域の人たちに支えられている。その一人、あきる野市で養蜂業に携わる羅久井俊介さん(3年)はMOTTAINAIの作曲などをサポートしてくれた。羅久井さんは「今後も、同世代の子どももやってみたいと思う活動に取り組みしてほしい」と期待を込める。

貫井さんと共同で部長を務めた松本優菜さん(3年)は「活動を通して、多くの方にお世話になり、交流する中で、コミュニケーション力が高まった」と充実感をにじませた。

### Challenge

#### 無駄

メンバーが集まるとセザリくん「あ、もっちゃんも学んでいてくれる。6月19日、ため、隣から新たな「アップ」たアクアヤ木美穂さんトポトルツトの佐た。ペツってトーのビーズブレスレうまく小片の伸メンバーに付けてら？」とんは「いいんが柔らかいずいた。を意識し駄にしな今後と関わり指導やOTTAOTTAど、SD地道に取に部長に(2年)の出身。域の良いができたと意気込と意気込あきるで学ぶ高活発にSを発信し